

# 吉野川市総合教育会議会議録

招集年月日 令和3年1月29日(金)  
招集の場所 吉野川市役所東館3階231会議室  
開閉会日時 開会：令和3年1月29日午前10時25分  
閉会：令和3年1月29日午前11時05分

出席委員 市長 原井 敬  
教育長 栗洲 敬司  
教育長職務代理者 栗原 奈麻美  
委員 鹿兒島 康江  
委員 川村 徳子  
委員 熊代 雄一郎  
委員 貞野 雅己  
副市長 岡田 芳宏 政策監 露口 悦之  
副教育長 松原 勲 副教育長 木屋村 雅信  
人権課長 江本 和隆 教育総務課長 和泉 光弘  
学校教育課長 浅山 直慰 生涯学習課長 近藤 秀樹  
事務局 総務部次長 中山 泰治 総務課課長補佐 藤井 豊

## 議題

- (1) コロナ禍における新たな教育環境について
- (2) GIGAスクール構想の推進について
- (3) その他

## 【会議の経過】

総務部次長 ただ今から令和2年度第1回吉野川市総合教育会議を始めさせていただきます。では、まずはじめに原井市長にご挨拶をお願いいたします。

市長 教育委員のみなさまにおかれましては、先の定例教育委員会に引き続き、お疲れのところ総合教育会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、日頃から委員のみなさまには市政に関し、とりわけ教育行政についてご指導いただいておりますことに改めてお礼を申し上げます。

さて、昨年をふりかえりますと、市民プラザ・アリーナ・図書館のオープンや、鴨島中央認定こども園の開園など、市民にとって、特に子どもたちにとっての教育・保育関係の施設整備を進めてきたところですが、新型コロナウイルスが猛威をふるう中、教育現場においても予断を許さない緊張した状況が続いていることと存じます。子どもたちにとっては学校行事が中止になるなど心身共に大変な状況であると察しており、市政を司る立場にあって大変申し訳ない気持ちです。

本日の議題を見ますと、このようなコロナ禍での教育環境に関することに加えて、前倒しで進めておりますGIGAスクール構想についても、委員のみなさまからご意見をいただくことになっております。

加えて、新聞報道でもありましたとおり、本市の財政状況は中長期的に相当厳しい見通しが出されておりますが、このような状況だからこそ、市長部局と教育委員会がより一層連携を図って、知恵を絞ってやっていかなければならないと考えておりますので、みなさまからの忌憚のないご意見をいただきたいと思っておりますので最後までよろしく申し上げます。

総務部次長 それでは議事に移りたいと思っておりますが、議長については、慣例により市長にお願いすることとしておりますのでお願いいたします。

市長 議事については、私の方で議長をさせていただきますので、円滑な議事進行にご協力をお願いいたします。

以降の進行については、着座にて失礼いたします。

なお、あらかじめ委員のみなさまに、それぞれの議題について質問をいただいております。お手元にお配りしております「質問一覧」の順にご質問いただき、その都度、担当者からご説明・回答をさせていただきます。

では、早速議事に入りたいと思っておりますが、(1)の「コロナ禍における新たな教育環境について」は、2名の委員さんからご質問をいただいております。

はじめに栗原委員さんからよろしくようお願いいたします。

栗原委員 コロナ禍での新しい時代の人権教育についてご質問させていただきます。コロナ禍での取組として、小学校入学時の不安を和らげ、受け入れをスムーズにするために作成されたDVDや、教育環境としての空調整備など新しい時代の取組を学校訪問において観させていただきました。また、給食センターにおいてもコロナ禍での食品ロスへの素早い対応等地道な取組の報告を受けました。

しかし、一方で目に見えない不安を生むコロナ禍においてコロナ差別という言葉も生まれました。各学校での教育や教育行政においても重要な問題だと捉えますが、本市の社会環境としての「新しい時代の人権教育」のあり方についてお伺いいたします。

市長のご挨拶にもありましたように、一般行政と教育行政の方向性を同じにしていければいいと思っておりますのでよろしく申し上げます。

市長 ありがとうございます。栗原委員さんからコロナ禍における人権施策についてのご質問をいただきました。

市政全般に係る内容については人権課から、また学校や社会教育の現場における現状や取組の内容については学校教育課から、それぞれ回答をお願いします。

人権課長

市人権課が行いました、新型コロナウイルス感染症における差別誹謗中傷などに対する啓発事業につきまして、ご説明いたします。

令和2年4月に市ホームページに「新型コロナウイルス感染症に関する人権の配慮について」の内容を掲載し、併せて市内こども園・小学校・中学校に同じ内容のチラシ配布を行い、5月には自治会宛て回覧文書を送付、6月には広報よしのがわに掲載しました。

7月には「新型コロナウイルス感染症に関する差別や偏見をなくそう」との内容で新聞への折り込み配布を行い、併せて自治会宛て回覧文書、市内こども園・小学校・中学校、市内事業所や関係機関に配布を行いました。

また、9月には産業経済部が発行しました「おえクーポン券」の表紙に「新型コロナウイルス感染症に関する差別や偏見をなくそう」との標語を掲載し、12月には7月に配布したチラシを自治会回覧するなど、継続して啓発活動を行いました。

新型コロナウイルス感染症に対する差別誹謗中傷は決してあってはならず、許されるものではありません。感染された方を責めるのではなく、思いやりの気持ちが必要です。

今後も、新型コロナウイルスに感染された方やそのご家族、また、医療・介護従事者、社会生活を支える関係者の方々に対する差別誹謗中傷などがなくなり、誰もが安心して過ごせる社会を目指し、継続して啓発活動に努めたいと考えています。

学校教育課長

学校におきましては、「学校でクラスターを発生させない」という方針のもと、教職員一丸となって感染症対策を講じつつ、同時に人権尊重の精神を基盤に、新型コロナウイルス感染症についての正確な情報や科学的根拠に基づいた適切な行動がとれるよう、学校の実情や発達段階に応じた組織的な取組を行っております。

具体例といたしまして、これまでも、道徳や学級活動における人権学習をとおして、「もし自分が感染したら」という視点に立ち、偏見や差別、いじめ問題を自分事としてとらえ、互いを尊重し合うことの大切さについて深く考える取組や、校内人権意見発表会において、生徒が主体となり新型コロナウイルス感染症に対する偏見や差別に向けた強い思いを発表し、校内で共有する取組等が行われております。

また、人権課作成の「新型コロナウイルス感染症に関する差別や偏見をなくそう」チェックシートの活用もその1つであり、今後も人権課をはじめとした関係諸機関との連携を図ってまいります。

学校教育におきましては、今後も、社会の変化、子どもの変化に柔軟に対応しつつ、新たな人権問題につきましても、偏見・差別・いじめを「しない」「させない」「許さない」子どもの育成に向け、これまで脈々と培ってきた人権教育を基盤としながら、学校の教育活動全体を通じて、人権尊重の意識を高める活動に取り組んでまいります。

本市といたしましても、学校ならびに人権課をはじめとした各関係機関と連携し、人権教育の推進に努めてまいります。

市長 栗原委員さん、ただ今の回答でよろしいでしょうか。

栗原委員 4月に人権課が作ったチラシのチェックシートが大変好評で、他市からの問合せや関西のテレビ局での放送があったと聞いています。他市での人権関係の会議でも紹介させていただきます。ありがとうございました。

市長 続きまして、鹿児島委員さん、お願いします。

鹿児島委員 昨年10月、11月に学校訪問をした際に、先生方が新型コロナ感染防止対策に神経をすり減らしている状況がよくわかりました。教室の消毒や換気、子どもたちの手洗いの徹底、マスクの着用、給食を黙って食べるなど、大変な状況であると感じました。子どもたちも指導に従って頑張っていますが、目に見えないストレスがたまっているのではないかと感じました。

3密を避けるため、子どもたちのストレスを解消するため、心身の健全育成を図るため、できるだけ戸外でマスクなしで自由にのびのびと間隔をとって、遊んだり話ができる環境づくりをしてあげたり、急に学校が休みになっても、リモート授業なども重要であると思いますが、自宅で自分で食事が作れるようになるなど、自分で生きる力を発揮できるような活動を今以上に取り入れてみてはと考えております。

具体的に実践していくためには、現状の限られた人数では難しく、担い手を学校現場に増やしていければ、先生も子どもたちも幸せになると思います。現状においても特別支援教育の支援員を手厚く配置していただいておりますが、なお一層力を入れてくださるとありがたいと考えています。よろしくお願いします。

市長 ありがとうございました。鹿児島委員さんから学校におけるコロナ対策に関する学習についてご質問をいただきました。学校教育課からの回答をお願いします。

学校教育課長 現在、学校におきましては、3密の回避、学校行事等の内容精選等、感染症防止対策の徹底を十分に考慮しつつ、子どもたちの学びの保障に努めているところでございます。

同時に、コロナ禍による長期にわたる臨時休業、夏休みの短縮、学校行事の精選、日々の基本的な感染症対策等、例年とは大きく異なる生活リズムによる子どもたちへの心身への負担も十分に考慮しつつ、学習活動を進めております。

委員からのご提案である、戸外での活動のさらなる充実、児童生徒の

自立に向けた実習時間の充実等は、子どもたちの心身の健全育成に向けた取組として有効であると考えます。

中でも、戸外での活動は、子どもたちを取り巻く環境に生じている閉塞感を打破するとともに、子どもたちの元気を取り戻し、健やかな成長を図る活動として期待できると考えます。

また、家庭で過ごす時間が多くなった子どもたちにとって、調理等の家事を学ぶことは、家族の一員としての自覚と自立心を育むよい機会となり得ます。

授業時数確保に向けた取組とのバランス、感染症防止対策を考慮しながら、学校の実情に応じて対応してまいります。

しかしながら、実施に向けた人材の確保は、大きな課題であります。

保護者や地域の方々をはじめとした地域人材の活用、学びサポーター配置事業等、県の事業などの積極的な活用、学生ボランティアの活用等を行っている学校の状況を把握し、より有効な人材活用に向けて情報共有を図ってまいります。

市長 鹿児島委員さん、ただ今の回答でよろしいでしょうか。

鹿児島委員 来年度も引き続き支援員の配置をよろしくお願いします。

市長 それでは続きまして、(2)の「GIGAスクール構想の推進について」を議題とします。この議題につきましては2名の委員さんからご質問をいただいております。お二方に続けてご質問をいただいた後に、一括して回答をお願いしたいと思います。

それでは、川村委員さんからよろしく願いいたします。

川村委員 11月に県総合教育センターでの研修で、文部科学省教育企画課長浅野様の講演では、今後GIGAスクール構想により、オンライン・遠隔教育や学習履歴など、ICTという強力なアシストを得て、児童生徒の個別学習や個に応じた指導が可能になり、Society5.0時代を生きぬく子供たちにふさわしい教育環境が整備されていくという内容でした。

学校訪問でも各校の先生方がICTを活用して授業をされていましたが、全ての子どもが情報の編集を経験しつつ、多様な意見にも既時触れられる光景を目のあたりにし、主体的・対話的で深い学びができていくように感じました。

本市においても1人1台端末の整備などの事業が進められていますが、教員のICT活用の指導力や情報セキュリティの確保などの課題も挙げられます。

現在ICT支援員が、教員のICT機器操作の補助やICT教育の支援を行い、課題の解決に取り組んでいるところですが、今後ますます必要性が高まると思います。

国も行政機関としてデジタル庁を創設されようとしている中、吉野川

市におけるデジタル課、ICT活用アドバイザー、GIGAスクールサポーター、ICT支援員等の配置促進について、市としての取組についてお伺いいたします。

市長

続きまして栞原委員さん、よろしくお願いします。

栞原委員

国のGIGAスクール構想における1人1台端末の整備が進む中、課題の整理が待たなしで求められています。

今後の問題として、費用、効果、関係者・関係機関の連携や、学校と保護者間のネットワーク、学校間のネットワーク構築も予想されます。また、通信環境の整備、教育環境としての教員のスキル向上も急がれます。優先順位や長期段階的課題の整理も具体化しなければいけません。

また、本市におけるデジタル化も同時に進行していくと思われま。一般行政と教育行政とのさらなる連携が必要だと思われまますが、本市の今後の展開についてお聞かせください。

教育現場においては、特別支援学級など児童の個性に合わせた取組が必要と思いますので、現状の支援員を確保していただきたいと思います。よろしくお願いします。

市長

ありがとうございました。お二方からGIGAスクール構想と行政のデジタル化に関するご質問をいただきました。まず、GIGAスクール構想に関する現状や進捗状況について学校教育課から、本市における行政のデジタル化について、財政状況も含めて政策監から、それぞれ回答をお願いします。

学校教育課長

来年度からGIGAスクール構想における1人1台端末の本格運用が開始されるに当たり、教員のICT活用に関する指導力の育成ならびに情報セキュリティの確保は、急務であります。

委員お話のとおり、教員のスキルアップが何よりも重要と考え、本市におきましても、今後、1人1台端末導入に向けた研修を進めてまいります。

まずは、今年度、タブレットでの各種ソフトを活用した授業支援についての実践的な研修を実施しま。小中学校の教員が互いの研修に参加することで、小中学校間のスムーズな連携も目指してまいります。

さらに来年度につきましても、授業における1人1台端末の有効活用に向けた研修を最重要課題ととらえ、研修を進めてまいります。

また、情報セキュリティの確保につきましても、想定される課題に迅速かつ適切に対応できるよう、学校ならびに各関係課等とより一層連携してまいります。

さて、現在本市ではICT支援員1名配置しており、授業支援や教材作成、環境整備等、教員本来の業務をより効率的・効果的に実現していくためのサポート役を担っておりますが、今後、1人1台端末の導入に

より、ICT機器の準備・操作支援、メンテナンス支援等、その役割はこれまで以上に重要となります。

本市といたしましても、GIGAスクール構想の充実に向け、児童生徒の情報活用能力の育成はもとより、教員の資質・能力の向上に資するためにも、ICT支援員をはじめとするICTに関する人材の配置に向け、今後も予算確保に努めてまいります。

次に、GIGAスクール構想における課題の共有についてですが、現在、来年度からの1人1台端末のスムーズな運用に向け、高速大容量校内ネットワーク整備工事などの環境整備、教職員のICT活用力・指導力アップに向けた研修ならびに情報セキュリティ研修などの計画を急ピッチで進めているところございます。

さて、GIGAスクール構想では、ハード面の整備とともに、学習状況や興味関心に応じた、子ども達一人一人の資質・能力の育成がより一層図られるよう、授業において端末をどのように活用し、学びを深化・転換していくかが重要となります。

例えば、今後授業において、授業支援ソフトの導入により、子どもたち一人一人の反応や考えを可視化し、即時に把握しながら双方向的に授業を進めることが可能となるとともに、理科の観察・実験における動画撮影による分析や振り返り、社会の授業における収集データや地図を端末で重ね合わせたグループでの分析・発表等、各教科における学びをさらに深めることが期待できます。

また、今後は、有事の際も含めた、家庭と学校両方での端末利用によるテレビ会議システムの活用も想定されます。

委員のお話にありますように、GIGAスクール構想による1人1台端末の運用が安全安心かつスムーズに進み、かつ学びの深化・転換につながるよう、今一度課題を整理するとともに、優先順位をつけつつ長期的視野に立ち、関係課等と課題を共有し、迅速かつ適切に対応してまいります。

## 政策監

総務省は、自治体デジタル・トランスフォーメーション（DX）推進計画を策定し、「自治体は自らが担う行政サービスについて、デジタル技術やデータを活用して、住民の利便性を向上させるとともに、デジタル技術やAI等の活用により業務効率化を図り、人的な資源を行政サービスの更なる向上に繋げていくことが求められる。」としており、組織体制の整備やデジタル人材の確保・育成、計画的な取組等、推進体制の構築をすることが望ましいとしています。

本市の電算業務・デジタル化につきましては、現在、管財システム課電算係3名が従事しており、その内の1名が専門資格を有しており、人的な面では既にデジタル化への対応が可能な体制となっているものと考えております。また、学校教育課からのGIGAスクール構想を含めたICT化についての相談にも協力しながら対応しているところでございます。

デジタル庁の創設という国の動きの中にあつて、今後、行政サービスのデジタル化については、国や先進地の動向に注視しながら、順次対応を進めて参りたいと考えておりますが、一方で、冒頭に市長からお話もありましたとおり本市の財政状況は極めて厳しい状況にあり、昨年11月には市長から財政危機突破宣言を発したところです。

このような状況下においても、教育現場を含めた行政のデジタル化については、市民サービスの低下を招くことのないよう、財源確保の工夫を行いながら遅滞なく進めることが重要であると考えておりますので、少しでも有利な国・県の補助金等を積極的に活用しながら、できる限り必要な取組を進めて参りたいと考えてます。

市長 G I G Aスクール構想のタブレット端末については、来年度から運用できるよう担当者が急ピッチで準備を進めております。スケジュールがお示しにくい状況ではありますが、適宜進めて参りますのでご期待のほどお願いいたします。ご質問いただいた委員さん、何かコメントなどはありますでしょうか。

川村委員 よろしく申し上げます。

栞原委員 説明の中で、想定される課題とありましたが、具体的にはどのような内容でしょうか。また、支援学級の子どもたちに不利益にならないよう使い方なども考えていただけたらありがたいです。

市長 支援学級に関する取組については鋭意努めて参りますが、想定される課題について回答をお願いいたします。

学校教育課長 G I G Aスクール構想は来年度から本格的に運用が始まります。これまでもパソコンに関する学習は積極的に進めてきておりますが、ネットワークが繋がらない状況もあったり、ソフトの活用についてもはじめてのことですのでうまく使い切れなかったり、双方向の学習についても様々な課題が発生するかもしれません。できるだけスムーズに運用ができるように、確認しながら進めてまいりたいと思います。

市長 予定されていたご質問以外でその他ご意見・ご要望等がございましたらお願いいたします。貞野委員さん、何かございますか。

貞野委員 財政状況は厳しいとは思いますが、未来を担う子どもたちの教育にはお金をかけていただきたい。保護者にとっても、子どもたちの教育が充実していれば、安心して仕事や生活ができると思いますので、やりくりをお願いしたいと思います。

市長 熊代委員さん、何かございますか。

熊代委員 身近なところで新型コロナの感染者が出た場合に、その方を守る取組や対策を一番に考えていただきたい。既に対策はされているとは思いますが、感染された方の人権を守るため、再確認と徹底をお願いしたいと思います。

市長 教育長、コメント等ありますでしょうか。

教育長 G I G Aスクール構想事業については、急ピッチで進めております。想定される課題として教員のスキルや機材の能力等が挙げられますが、基本的に私は心配はしていません。「習うより慣れる」で子どもたちはきっと使いこなせるはずです。  
教育委員会として気をつけたいのは、子どもたちが使いやすい環境を整えること、自宅へ持ち帰れるようにするなど、環境を整えさえすればどんどん上達すると思います。しかし、タブレットを活用しながらも、先生と子どもを中心とした、紙媒体の教科書と対面授業が学校教育の基本となると考えています。  
新型コロナに関しては、付き合い方もわかってきており、一斉の臨時休業は想定しにくい状況ですので、学年やエリアで区切って、短い休業期間で対応できるのではないかと思います。教員はコロナ対応を頑張ってくれていますが、今後も気を緩めずに取り組みたいと思います。

市長 本日は、コロナ禍における新たな教育環境、そしてG I G Aスクール構想について、みなさんにご意見をいただきました。回答にもありましたように、各事業とも今後も急ピッチで進めて参りたいと思います。  
加えて、学校支援員の確保や教育予算の充実、新型コロナ感染者が出た場合の対応など、広くご意見をいただきました。  
教育長からお話のあったとおり、学校におけるコロナ対応も固まってきたところですし、いざ感染者が出たときも色々な対応ができるものと考えております。感染者に対する差別、誹謗、中傷については、一人一人の意識の問題であり、感染者自身が傷つくことのないよう努めていきたいと思います。  
委員さんからいただきましたご要望やご意見につきましては、今後の市政に活用させていただきたいと思っております。  
ご意見が尽きたようですので、今回の総合教育会議を閉じることと致します。議事進行にご協力を賜り、ありがとうございました。

総務部次長 以上をもちまして令和2年度総合教育会議を終了したいと思っております。ありがとうございました。